

Saito Vision 2019 「Action Plan」の項目別進捗状況一覧

5：当初の想定以上に実施した， 4：十分に実施した， 3：実施した， 2：十分には実施していない， 1：全く実施していない

分野	Action Plan	進捗状況	実施した内容
教育	■数理・データサイエンス教育の必修化	5	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省「大学における数理・データサイエンス教育の全国展開」の協力校に選定（R2.1） ・令和2年度新入生から数理・データサイエンス教育を必修化 ・データサイエンス推進センターの新設（R2.4）
	■学生のやる気・ワクワク感を後押しする教育・学生支援の推進	3	<ul style="list-style-type: none"> ・R4年度からの新たな教養教育に向けた将来構想の策定 ・全学部で、カリキュラム編成に学生の意見を反映するシステムを整備 ・学生参加を含むFD活動の推進 ・地域を志向した教育プログラムの継続実施 ・基礎力拡充クラスやテーマ別クラスなどの英語教育の充実（R3.4）
	■地域連携授業の推進	5	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）（～R1年度）」における地域と連携した取組により、事業評価「S」 ・文部科学省「大学による地方人材育成教育プログラム構築事業（プロジェクト略称「ENGINE」）」の採択校に選定（R2.10） ・「地域課題解決型人材育成プログラム」を平成28年度より継続実施。修了者に対しては修了証交付
	■大学院の再編	4	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の大学院再編に向けて、以下の取組を実施 ・大学院再編のスローガンとして「"人"と"地"の健康を科学する大学」を設定（R2.3） ・現在の大学院を3つの研究科と2つの学環（医学系と生命融合の連携強化組織を含む）へと再編する構想を決定（R3.4） ・設置の届出に係る手続に向けた検討作業を実施中
	■教員養成機能の見直し	4	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会との連携により、人間発達科学部専門科目「学校インターンシップ」の開設（R1.4） ・教員養成系における連携・協力に関する協議会（富山大学・金沢大学）設置（R2.1），金沢大学との共同教育課程（令和4年度設置）の設立に向けた検討を実施 ・教育実習の実施に関し、教育委員会と協力体制を構築

分野	Action Plan		進捗状況	実施した内容							
教育	■外国人留学生に対応した教育・環境の充実	留学生宿舎の整備	2	<ul style="list-style-type: none"> ・五福キャンパス構内に100名規模の外国人留学生宿舎の整備等を検討。検討の結果、新樹寮への短期滞在外国人留学生の宿泊を可能とする入居規則の整備を実施（R2.3） ・富山市民プラザと連携した、「まちなかシェアハウス」の整備を検討中（R2～継続検討中） 							
	■高大接続	高校から大学，そして社会へのキャリアをサポート。一貫した学力の育成	3	<p>優秀な志願者確保を目的とした高大連携事業を以下のとおり展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究等の探究活動を通じた高大連携事業に関する指導・助言（富山中部・富山・高岡・高岡南高校）（R2 4校，対象学生数 479人（前年度480人）） ・（新規）本学発の高大接続事業の拡充に向けた県内高校等への訪問（R2 延べ19校） ・模擬授業，大学説明会等による高校生を対象としたキャリアデザイン構築のための支援（R2 114件（前年度97件）） ・高等学校が主催するキャリアデザイン構築のための大学見学受入（R2 18件（R1 37件）※新型コロナの影響により減少） ・県教育委員会の事業「社会へ羽ばたく『17歳の挑戦』アカデミック・インターンシップ」の受入（R1 五福・杉谷の8学部で受入） <table border="1" data-bbox="1115 987 2837 1092"> <thead> <tr> <th></th> <th>H31</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学生の県内出身者数（%）</td> <td>514(28.3%)</td> <td>499(27.7%)</td> <td>482(26.6%)</td> </tr> </tbody> </table>		H31	R2	R3	入学生の県内出身者数（%）	514(28.3%)	499(27.7%)
	H31	R2	R3								
入学生の県内出身者数（%）	514(28.3%)	499(27.7%)	482(26.6%)								
研究	■世界トップレベルの研究拠点を形成	“強み”となる分野での研究センター設置。（アイドリング脳科学研究センター（仮称）など）	4	<p>以下の研究センターを設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイドリング脳科学研究センター（R2.4） ・先進アルミニウム国際研究センター（R2.4） ・未病研究センター（R2.4） ・熊本大学との連携による，先進軽金属材料国際研究機構（R3.4） 							

分野	Action Plan	進捗状況	実施した内容
研究	■富山ならではの研究推進 「『くすりのシリコンバレーTOYAMA』創造コンソーシアム」, 「とやまアルミコンソーシアム」など行政・産業界と協働して推進。	4	富山県を中心に、富山県立大学や関係業界団体と協働して、以下のコンソーシアムによる事業を推進 ・『くすりのシリコンバレーTOYAMA』創造コンソーシアム (H30～) ・とやまアルミコンソーシアム (H30～) ・とやまヘルスケアコンソーシアム (R元～)
	和漢医薬学総合研究所の改革と発展	3	・和漢医薬学総合研究所の改革 (3部門, 1センター, 1資料館に改組, 新設分野への教員配置) (R2.4, R2.12, R3.1) ・医学部, 薬学部, 附属病院等との部局横断セミナーを実施 (R2.6, R3.2) ・医学部・附属病院と連携した特定臨床研究を実施[①軽度アルツハイマー型認知症等への山芋エキスの有効性検討(R2.7承認), ②頸椎症性脊髄症へのニクジュヨウエキスの有効性検討(R2.12承認)] ・3テーマの重点研究プロジェクトの合同会議を開催 (R2.7, R2.11, R3.1)
	■レジリエント (対応力のある) な都市づくり 富山をモデルに人生100年時代の医療包括ケアや, 誰もが自由に出かけられるスマートシティを構築, それらを通じてSDGsの達成に貢献	4	・富山市SDGsウィークに出展し, 本学のSDGsに関する取り組みをまとめた冊子を配付 (R2.1) ・富山市路面電車南北接続記念事業に参加し, 本学でフォーラムを実施 (R2.3) ・読売新聞富山支社と共催し, 市民講座「未病学への招待」「健康都市のデザイン」を実施 (R1.10, R2.10) ・南砺市, 富山市, 朝日町, 飛騨市でコミュニティメディカル講座を実施 ・人生100年時代の富山大学ビジョンを作成し, 大学院再編のコンセプトとして展開 (R2.3) ・理学・工学・社会科学の視点から自然災害 (豪雨, 豪雪) について考えるシンポジウムを開催 (R2.6, R3.3) ・中山間地域の安全安心・環境保全の実現のため, 令和3年1月孤立集落となった地区及び富山市八尾地区の気象情報を定点観測し, IoT通信インフラを用いて観測データの集約を開始 (R3.3)
■新分野の開拓 部局を越えた連携を促進, STEAM (科学, 技術, 工学, 数学に芸術を融合) によりイノベーションを創出	3	・医学部, 工学部, 芸術文化学部, 附属病院が連携して人工呼吸器を開発する等, 新たなヘルスケアデザイン分野の研究を推進 (R2.3～) ・経済学部や都市デザイン学部が連携してデータサイエンス分野の研究を推進 (R3.4～) ・医学部, 工学部, 附属病院が連携して新型コロナウイルスの感染を防御する中和抗体を新規に取得 (R3.4～) ・学長裁量経費にて「部局間連携研究経費」に対する支援を実施 (H31～)	
社会貢献	■地方創生の推進 自治体・産業界等と連携・協働し, 地域活性化事業に積極的に参画すると共に, 学生の地元就職率向上に向けた取り組みを実施 (COC+ 事業など)	4	・学生の地元定着に向けた企業側の意識の向上を図るため, 「TOYAMA採用イノベーションスクール」を継続して開講 ・COC+の後継事業として公募, 信州大学・金沢大学との3大学でR2年度に採択された「ENGINEプログラム」の事業開始 (R3.4)

分野	Action Plan		進捗状況	実施した内容
社会貢献	■地域の交流拠点	身近なアカデミアとして、人々に多様で魅力的な交流機会を提供、住民の誇りにできるキャンパスづくりを展開	3	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が参加できる「おもしろい大学フォーラム」の実施（R1.11） ・コロナ禍に対応したオンラインセミナーの実施（R2.6～7） ・ホームカミングデーをオンラインで開催し、大学の現状を広報（R2.11） ・キャンパスづくりの基本的方針等を定めたキャンパスマスタープランを「キャンパスマスタープラン2020」に改訂 ・図書館の空調改修（R1 中央図書館, R2 芸術文化図書館）
	■リカレント教育の充実	現役世代に向けた実践的な講座を充実させると共に、ライフイベントに配慮した女性支援講座等を実施	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「魚津三太郎塾」, 「とやま呉西圏域共創ビジネス研究所」, 「たなべ未来創造塾」などの人材育成塾を継続実施 ・企業の求人力を高める「TOYAMA採用イノベーションスクール」を実施。これにより、「企業採用担当者が選ぶ大学」全国2位 ・学び直しを通じたオーダーメイド型キャリア形成支援として、託児付き女性支援講座を実施（R1.9～11） ・社会人向け公開講座「社会人のためのデータサイエンス入門」を開講（R2年度 全6回 受講者13名） ・北陸経済連合会主催の社会人向けデータサイエンス講座の後援 ・「次世代スーパーエンジニアリング講座」の継続開講
	■高度先進医療の提供	地域医療の砦として、質の高い医療を提供。あわせて、発病前に介入する未病ケアのシステムを構築	4	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスへの対応（第2種感染症指定医療機関に指定（R2.5）, 重症～中等症のコロナ陽性患者に対する入院治療（136人）, CT装置、成人用・新生児用人工呼吸器、ECMO、超音波機器等の整備） ・総合がんセンターの開設 ・手術室2室増設、ICU2床増床、外来化学療法センターの増床、新厨房棟の整備 ・未病研究センターの設置（R2.4） ・和漢薬を用いた医師主導の臨床研究の実施に向けて検討中
大学運営	■ガバナンスの強化	ITを利用した情報収集、十分なコミュニケーションを通じて問題意識を共有し、学長がリーダーシップを発揮できる体制を構築	4	<p>学長や執行部の考えを共有するとともに、大学全体で、本学の魅力を向上させるための取組を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部局ヒアリングワークショップ（R1.6～7） ・「おもしろい大学フォーラム」の実施（R1.11） ・部局ヒアリングを踏まえた本学の現状と今後の取組に関する説明会（R1.12） ・大学執行部と各部局の懇談会（R2.7～10） ・学生との対話
	■IRの活用	入学前から卒業後まで、一連の学びの実態を把握するエンrollment・マネジメントを構築	3	<p>エンrollment・マネジメントの一環として、教学データを用いたIR分析を実施。関係部局等にも結果をフィードバックし、教育内容の改善を促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修行年限卒業率の決定要因に関する分析（R1.8） ・学部学科別・入学試験区分・入学試験成績別の修業年限卒業率に関する分析（R2.2） ・学士課程学生の学部学科別の授業満足度調査に関する分析（R3.3）

分野	Action Plan		進捗状況	実施した内容
大学運営	■財政の見直し	運営経費を徹底的に見直す経営改善タスクフォースを設置、経費を「見える化」と共に無駄な支出を可能な限り削減	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学長、理事及び各部局等から選出された教員等で構成する経営改善タスクフォースを設置（H31.4）し、非常勤講師経費（840万）光熱水料（1,700万）の削減など経費節減に向けた取組を実施。 ・部局（セグメント）ごとの教育・研究経費等の執行状況を示すことで、コストの見える化を促進
	■外部資金の獲得	科学研究費等の申請方法や寄附金の納金方法などを具体的に示すことで収入金額を増加させる	3	<ul style="list-style-type: none"> ・産学官連携情報へのアクセス向上を図るための本学Webサイト改修（R1.5） ・富山大学基金のオンライン決裁導入（R1.11） ・公募説明資料の動画配信等の科研費獲得方策の実施（R2.9） ・共同研究制度改革の実施（積算・提案方式の導入）（R2.10）
	■教員業績評価の見直し	新年俸制導入に対応した評価制度を構築。モチベーションを高めるインセンティブを検討	4	<ul style="list-style-type: none"> ・共通評価項目を用いた新たな業績評価方法を検討し、基本方針を決定し、令和2年度に試行 ・令和2年度の結果を基に、全学共通評価項目を用いた業績評価方法を策定し、令和3年度から実施
	■新たな運営体制の導入	教教分離による組織体制を導入。採用人事を全学的見地で行い、若手・女性教員比率を向上させる	3	<ul style="list-style-type: none"> ・教教分離を実施し、教員組織「学術研究部」を設置（R1.10） ・「学術研究部会議」において、全学的な見地で、教員の戦略的配置や柔軟で迅速な人的資源の再配分等を議論 ・「本学の研究力向上と教育研究の活性化に向けての教員の職階構成及び年齢構成の適正化への取組方針」（R2.1.28）に則り、若手・女性教員の比率向上に向けて、採用件数を増加